

障害・年齢・性別超え、電動でプレー

「広がれ車いすサッカー」

サッカー・ワールドカップ（W杯）の開幕が近づくなか、「電動車椅子サッカー」にも目を向けようという動きが広がっている。障害者性別、年齢を超え一緒にプレーできるのが魅力で、来年、初のW杯が日本で予定されている。サポーターを増やそうと、一般市民にも加わってもらう体験会が来月4日、東京・石川、静岡で開催される。

来月に体験会、参加者募集



電動車いすの制限速度は時速4・5キロ〜6キロ。試合は迫力がある（日本電動車椅子サッカー協会提供）

8カ国参加 来年、日本でW杯初開催

電動車椅子サッカーは、重度障害者向けにカナダやアメリカで始まった「パワーサッカー」を参考に、日本独自のルールを加えて80年代に始まったという。

1チーム4人。パスケットボールのコートで「ピッチ」に、20分ハーフで争う。車いすのフットレストの先に、半分に分けた自動車のタイヤを取り付け、直径50センチの大きなボールをはしく。

車いすを操れば参加でき、若者男女を問わずいる。日本電動車椅子サッカー協会によると、昨年度の会員は全国で約400人、37チームが加盟している。

これまで、ボールの大きさも車いすの制限速度などは統一されていなかったが、今年、国際ルールが決定。来年、日本で、8カ国に上る初のW杯が開催されることになった。

しかし、国内での知名度は低い。そこで、協議

会の関東ブロックとNPOが連携し体験会を開くことになった。

東京・石川、静岡の各会場では、健常者にもPRK合戦などに参加してもらい、インターネットや携帯電話を利用した中継システムで8会場をつないで交流を深め合うという。

関東ブロック会長で国際ルール作りを進めた高橋弘さん（39）は「たれでも楽しめるユニバーサルなスポーツ。ドイツのW杯同様、もう一つのサッカーとして、盛り上げていきたい」と話している。

◇ 体験会は午後1時半〜4時。東京会場は多摩市のウエルシア多摩、石川会場は白山市のアピタ松尾、静岡会場は静岡市のほくとびあ清水。参加は無料。東京会場は31日まで申し込みが必要。石川、静岡会場は当日正午から受け付け。問い合わせは、NPO法人「STAND」（03・6771・6077）へ。